



アスパラガス栽培は、アザミウマ類の吸汁による若茎(可食部)の品質低下が問題となっています。主な加害種はネギアザミウマといわれています。しかし近年、他県でミカンキイロアザミウマの被害が報告されています。そこで県内のアスパラガス圃場(ほじょう)で発生しているアザミウマ類を調べ、各種殺虫剤の効力を明らかにしました。

2022年5、6月に県内28圃場で発生種ごとに寄生虫数を調査すると、ネギアザミウマが最も多いのは25圃場、ミカンキイロアザミウマが最も多いのは3圃場でした。

また、圃場から採集してき

たアザミウマを用い、室内実験によりアスパラガスで登録がある農薬の殺虫効果を調べたところ、ネギアザミウマには7薬剤中3剤で高い効果

アスパラ 農薬効果の調査

アザミウマ種類確認 殺虫剤選択を適切に

(死虫率80%以上)を示しました。しかし、ミカンキイロアザミウマに高い効果を示す薬剤は1剤のみでした。このように、アザミウマの被害が確認できた場合は、発生種を

■アスパラガスを加害するアザミウマ類に対する殺虫効果

薬剤名	希釈倍率	ネギアザミウマ				ミカンキイロアザミウマ			
		A	B	C	D	E	F	G	H
アーデント水和剤	1000倍	×	◎	◎	◎				
スタークル/アルパリン顆粒水溶剤	2000倍	◎	○	◎	◎				
モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	◎	○	◎	○				
ダントツ水溶剤	2000倍	◎	◎	◎	◎				
スピノエース顆粒水和剤	5000倍	◎	○	◎	◎				
ディアナSC	3000倍	◎	◎	—	◎				◎
ファインセーブフロアブル	2000倍	◎	◎	◎	◎				◎
死虫率		◎:100~80%、○:79~60%、△:59~40%、×:39~0%、—:調査なし							

確認し、それに応じて殺虫剤を選択することが重要です。(長崎県農林技術開発センタ―環境研究部門病害虫研究室 主任研究員 吉村友加里)